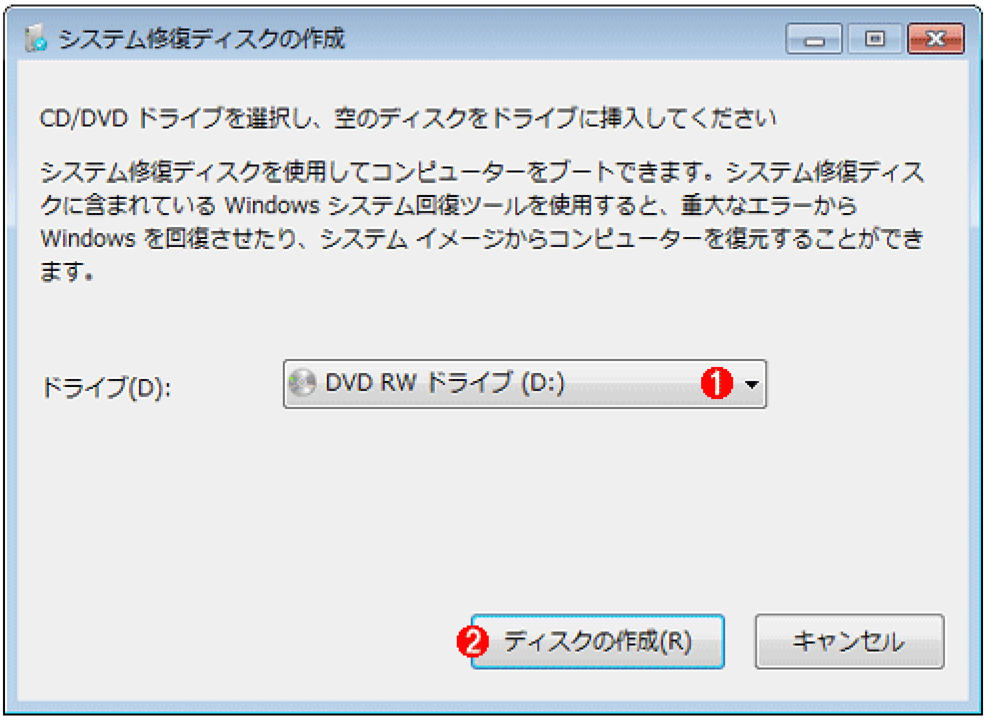
万が一のトラブルに備えて

システム修復ディスクの作成をしよう

■ Windows 7 で何らかのトラブルで Windows 7 が起動できなくなることもある。そのような万一に備えて、システム修復ディスクを作成しておくとよい。システム修復ディスクがあれば、Windows 7 が起動できなくなっても、システム修復ディスクから起動して、「スタートアップ修復」や「システムの復元」などの修復作業が実行できる。**起動しなくなった場合にあわてないように、システム修復ディスクを事前に作成しておくとよい。**

■ [スタート]メニュー－[すべてのプログラム]－[メンテナンス]の[システム修復ディスクの作成]を選択する。



■ [システム修復ディスクの作成]ウィザードが実行されるので、CD／DVD-R ドライブを選択し、CD／DVD-R ドライブに空の CD／DVD-R メディアを挿入する。あとは、[ディスクの作成]ボタンをクリックすれば、システム修復ディスクが作成できる。

■ システム修復ディスクで起動する

　CD／DVD ドライブにシステム修復ディスクを挿入し、コンピュータを起動／再起動する。CD／DVD から優先的に起動する設定になっていない場合は、起動時に[F2]や[F10][F12]などのファンクション・キーを押していると、ブート・デバイスが選択できるものが多いので、ここで CD／DVD ドライブを選択する（機種によっては BIOS の設定を変更し、起動の優先順位を変更する必要がある）。

■　システム修復ディスクから起動するので、[システム回復オプション]ダイアログでは「キーボード入力方式」が「Microsoft IME」（日本語に変更してもよい）になっていることを確認して、[次へ]ボタンをクリックする。

■ **Windows　VISTA 及び Windows　8　の場合**も同様の機能が付属しているのでインターネットで **Windows VISTA のシステム修復ディスクの作成方法**で検索すると解説記事をヒットさせることができる。**Windows　8の場合も同様**なので　本テキストでは詳細の手順は省略させて頂く。

文責：三　宅　　隆